

元ラトビア共和国外務大臣サンドラ・カリニエテさんが名誉領事館を訪問されました。

2015年2月19日

「ダンスシューズで雪のシベリアへ」という著作もある欧州議会議員サンドラ・カリニエテ女史がご主人のアンシス・レインハルズさんとともに2月16日に来日されました。

まず東京において、城内実外務副大臣はじめ国会議員の方々と EU と日本の関係について意見交換をされました。またシベリア抑留経験者の団体の代表の方や早稲田大学の EU 研究者たちとも会われるなど忙しく過ごされたそうです。

19日には関西学院大学で「EU・東ヨーロッパとロシアの関係」と題して大変興味深い講演をされ、講演終了後は在大阪ラトビア名誉領事館を訪れました。短い時間ではありましたが、ご主人とともに東郷武前名誉領事とラトビアの現状や日本の印象などについて語り、たいへん和やかなひとときを過ごされました。



関西学院での講義風景



関西学院にて



名誉領事館にて東郷武前名誉領事と



### ダンスシューズで雪のシベリアへ あるラトビア人家族の物語

著者：サンドラ・カルニエテ 翻訳：黒沢歩 価格：3,780円

ラトビアの国連大使や外相を歴任し同国初の欧州委員になったカルニエテ氏が2001年に上梓した半自伝的な小説の翻訳です。

旧ソ連によってシベリアへ強制移住させられた祖父母と両親、そしてシベリアで生まれた著者は4歳の時に祖国ラトビアに戻ります。

ソ連の崩壊後に入手可能となった公文書や、家族の日記などをもとに、大国の思惑に翻弄された小国の近代史を自らの体験を踏まえて生々しく綴った興味深い一冊となっています。